

故長岡伸恭氏追悼記念
令和元年度【それぞれの上高地】山行報告書

(公)日本山岳会 山形支部：野堀 (15137)

日本山岳会山形支部の定例行事である「それぞれの上高地」に2019年度は9月3日(火)～9月5日(木)の2泊3日、上高地山研を中心にして開催された。今年の参加者は安井康夫(8494)・野堀嘉裕(15137)・工藤正年(16287)・渡辺多美雄(ゲスト)の4名であった。安井氏は東京から独自に自家用車で沢渡に向った。山形在住メンバーは野堀車で鶴岡6:30発、工藤氏・渡辺氏と寒河江文化センターで集合し、8:00に寒河江発。南陽市→村上市(日本海東北道)→新潟市→上越市(北陸自動車道・上信越自動車道・長野自動車道)→松本市→沢渡(さわんど)市営第3駐車場集合とした。沢渡からは安井車に便乗し、本来なら車で立ち入ることのできない上高地山研まで直行で向かった。山研には夕方16:30に到着した。3日の天候は曇り時々小雨で、暑くもなく快適なドライブであった。山研到着後に4日の計画についてブリーフィングを行った。今年の「それぞれ」の上高地山行希望は全員が焼岳登山希望であることから、全員同時行動とすることにしたが、4日は朝の予報であり山行が躊躇される状態であった。

4日は5時半起床で朝食と昼食用のお握りを作った。安井理事の提案により「行けるところまで行く」ことにした。レインウェアに傘をさして、山研を7:00に出発。河童橋経由、ウエストーン碑で山行の無事を祈願したのち、焼岳登山口に向かった。8:00に登山口発、樹林帯の緩い斜面を登る。傘が大変役に立つことが実感された。峠沢の左岸の急傾斜地に差し掛かると勾配も急になり、梯子の登りが続く。中尾峠は、昔は奥飛驒に向かう生活道路であり、焼岳噴火以前は馬が通ったと聞いたが、当時は緩傾斜の道があったに違いない。噴火後に新設された登山道は火口壁をトラバースする物凄い急傾斜コースとなっている。尾根に近づいてくると勾配が緩くなり、峠にある焼岳小屋に到着した。このころは天候は雨から曇りに変わり、レインウェアを脱いでの行動となった。小屋前でお握りを食べてエネルギー補給とした。安井・工藤・渡辺の3名は11:00に小屋を出発山頂に向かった。野堀は展望台⇄小屋で待機することとした。12:30に焼岳北峰に到着、40分程景色を楽しんだ後下山。14:00に焼岳小屋で再度全員が合流して往路を下山した。尾根付近では秋が近くなってきており、ヤマハハコやキキョウが咲いていて心が和まされる。14:30頃から急傾斜地で梯子が続く下山路で豪雨となった。傾斜が緩やかになるころ雨は小降りとなったが、登山道が洗掘されているのがわかった。大正池上部で車道に戻ると一安心だが、まだ1時間ほどのロードが残っている。疲れた足を引きずりながら17:00に山研までたどり着いた。夕食の支度と風呂を同時に進行し18:00には夕食を摂った。夕食前のビールを飲もうとしたとき、今年の「それぞれの上高地」が故長岡さんの追悼であったことを思い出した。支部長の挨拶で黙祷をし、献杯で長岡さんを偲んだ。ところで、焼岳では8月から空気振動が観測されており、3日も発生していたらしい。焼岳小屋から10分の展望台では多数の噴気孔から水蒸気が噴出しており、

露岩は暖かかったが、だれも空振には気が付かなかった。山行の無事は長岡さんが見守ってくれていたからに違いない。

5日は7時起床、朝食後8:00に山研を後にした。管理者の元川様、大変お世話になりました。ありがとうございました。9:00には第3駐車場で解散した。山形在住メンバーは松本城見学の後、長野自動車道から往路を戻って寒河江に17:30に到着し、解散とした。終始和やかな今年の「それぞれの上高地」であった。

9月4日の焼岳の行動記録は「くどう」さんのYAMAP記録「焼岳-2019-09-04」に掲載があります。

以上